



# 新任教頭の紹介



## 子供たちからの「小さな幸せ」 黒東小学校 教頭 弥生 陽子

「学校は大変ではないですか」とよく聞かれます。でも、私は決まってこう答えます。「大変なこともあります、子供たちから『小さな幸せ』をたくさんもらえるんですよ」と。

町体育大会に向け、早朝から担任がラインを引いていました。そのそばで、玄關にランドセルを置き、ハードルを並べたり、コース内の除草をしたり、上手ではないけれどライン引きをしたりする子供たち。そして、日に日に、手伝う子供たちの数が増えていきました。このような光景が、初めからあったわけではありません。真剣に練習するよう檄を飛ばされたこともありました。しかし、自分たちが主役の体育大会にするために、自分たちにできることを考え実践し始めたのです。私は、子供たちの姿を見て、その思いを感じ、「小さな幸せ」を味わいました。

このような子供たちの変容の陰には、先生たちの支えがありました。担任と一緒にラインを引く先生、自分の走りを意識できるように理論を教える先生、最後まで力を出し切れるようゴール近くで大きな声で鼓舞する先生、運動が苦手な子供に寄り添い励ます先生、けがをしても心まで痛まぬよう優しく手当てをする先生、・・・たくさんの先生が自分の持ち味を生かして協働する姿からも、教頭として「小さな幸せ」をもらうことができました。

初任教頭としてスタートしたばかりで、悪戦苦闘の毎日が続いています。協働する中で、子供たちの成長の姿を教職員全員で見取ることができるよう努力を続けていきます。そして、その子供たちの姿から感じる「小さな幸せ」を教職員のみなならず、保護者や地域の人々とも分かち合っていきたいです。



## 「もののふ」から学んだこと 入善中学校 教頭 桶屋 宗伯

4月、入善中学校が新体制でスタートしました。生徒会のスローガンは「光輪～一人一人が輝く入中に～」です。このスローガンは、リーダーや中心となって活動する人だけでなく、一人一人が部活動や委員会活動、生徒会活動など、様々な行事で輝いてほしいという思いが込められています。入中が学校・地域で輝ける存在となり、みんなで手と手を取り合っ一つの輪となつてほしい。輝く生徒の輪が「光輪」となり、学校・地域を明るく照らす存在になつてほしいという願いが込められています。

「光輪」とはどのようなものでしょう。私は最近「光輪」を目の当たりにする体験をしました。それは「もののふ」です。「もののふ」とは桃色クローバーZのファンの総称です。

恥ずかしながら、オジサンの興味本位で、桃色クローバーZのコンサートに参加しました。そこで目にしたのはコンサート開始のカウントダウンと同時に行われた1万4千人の4色ライトの「きらめき」でした。「垣根を超えて、一つにまとまっている4色ライトの「きらめき」こそ、本年度入善中学校が目指す『光輪』そのものではないか。生徒一人一人の輝きを見付け、全職員で共有化できたならきっと素晴らしい学校になるのではないか。」と確信しました。教頭として生徒一人一人の個性を伸ばすことができるよう日々取り組んでいきたいと思ひます。そして、生徒の発する光を探し続けたいと思ひています。



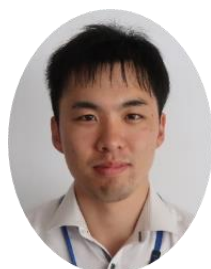
# 新任教員(中学校)の紹介



## 「教師になって」 入善中学校 西川 ゆりの

中学生の頃、「先生っていいなあ」とぼんやり思っていたのが、高校、大学と歳を重ねるうちにその思いが強くなって、今年の4月から教壇に立つことができました。

教壇に立っている自分が今でも信じられません。教師になってからの毎日は忙しすぎて一瞬で過ぎ、学校生活に慣れるのに精一杯です。また、学級でも授業でも部活動でもうまくいかないことが多すぎて嫌になることが多々ありますが、その度に先生方が助言をしてくださったり、対応してくださったりと本当に助けられてばかりです。そんな中でも、ある生徒が「先生の授業が楽しみです」と言ってくれました。まだ手探りで授業を行っていますが、一人でも多くの生徒が楽しいと思えるような授業ができるように、日々精進していきたいと思ひます。学校は生徒の学び舎であると同時に私も生徒や先生方から学ぶことがたくさんあるので、生徒たちと一緒に活動したり、勉強したりしながら成長していきたいです。



## 「教師になって」 入善西中学校 舛田 翔

新任教員として入善西中学校に着任して3か月となりました。一日一日があつという間に過ぎ去り、学校に慣れることで精一杯な日々でした。私はこの3か月

の中で、強く思うことが一つありました。それは、教員である限り、常に学び続け成長しなければいけないということです。学級経営や生徒指導などで悩むことの多かった3か月の中で、周りの先生方からの助言や研修の場で多くのことを知り、生かすことができました。また、授業を行う側に立ってみると、生徒に知識を伝えるのみになつてしまった場面が多くなり、思考する場面が少なかったように思ひます。生徒の興味・関心を引き出すためにも考えを広げることのできる場面を増やし、学ぶことに興味をもてるような授業の手立てを学ばなければと思ひました。

まだまだ経験が少ないですが、周りの先生方に尋ねたり、学ぶことのできる機会を生かしたりするなど、私自身が学び続ける中で成長していきたいと思ひています。

## センター事業報告① 【第4学年社会科・理科現地学習指導者研修会】

4月23日(火)に第4学年社会科現地学習指導者研修会を「エコぽ〜と」と「入善浄化センター」で開催しました。両職員の方々に詳しく説明を受けながら、現地学習ルートを実際に見学しました。

また、5月31日(金)に第4学年理科現地学習指導者研修会を「黒部市吉田科学館」で開催し、来る現地学習に備えることができました。



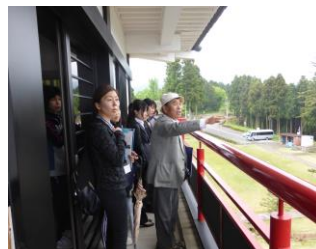
<入善浄化センター>



<黒部市吉田科学館>

## センター事業報告② 【入善町地域めぐり研修会 ～黒部川扇状地の自然と文化財めぐり～】

5月14日(火)に黒部川扇状地研究所研究員 広田 登先生を講師に招き、入善町地域めぐり研修会を実施しました。本年度は、小・中学校合わせて9名の先生方が参加してくださいました。当日はあいにくの雨でしたが、事前に広田先生が準備してくださった資料をもとに、貴重な文化財や自然について詳しく説明を聞くことができ、入善町の素晴らしさを堪能した一日になりました。



<舟見城址館>



<海洋深層水活用施設>

## センター事業報告③ 【いじめゼロ 不登校ゼロ への取組】 ～入善町小・中学校、高等学校生徒指導協議会～

6月7日(金)に、第1回入善町小・中学校、高等学校生徒指導協議会を開催しました。東部教育事務所指導課 主任生活指導主事 白井 修之先生を講師にお迎えし、「不登校の未然防止と不登校児童生徒への効果的な対応」という演題で、ご講演をいただきました。入善町の不登校の現状や未然防止について紹介していただくとともに、不登校児童生徒への効果的な対応について具体的に分かりやすく教えていただきました。「『児童生徒のために、何ができるのか』ということをそれぞれの立場で真剣に考え、『チャンス』を逃さず関わり、『チーム入善』のつながりの中で支援していく」という不登校ゼロへの指針をいただきました。この指針をもとに、不登校児童生徒が一人でも将来への明るい希望がもてるよう、着実に実践していきたいと思っております。



## センター事業報告④ 【入善町学力向上研修会】

6月21日(金)うるおい館にて、文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 兼 国立教育政策研究所 教育課程調査官・学力調査官 杉本 直美 先生に「育成すべき資質・能力を明確にした授業づくりー主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえてー」という演題でご講演をいただきました。先生ご自身の教職経験や研究成果の中から、学習指導要領改訂の基本方針や授業改善の視点、学習評価の在り方などについて大変分かりやすく丁寧にご講演いただき、今後の取り組み方について多くの示唆を得ることができました。

特に、「課題の把握・理解と、『何ができるようになるか』という資質・能力の明確化」「質の高い学びを目指す『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善とそのポイント」「学習の基盤となる『言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力』の育成」「資質・能力の育成を適切に評価する学習評価の在り方」など、これから進むべき方向性を具体的にご示唆いただきました。

なお、杉本先生がご講演の中で推奨しておられた「授業アイデア例」は、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考として国立教育政策研究所が作成したものです。毎年、各学校に配布されており、国立教育政策研究所のウェブサイトでも見ることができます。日々の授業や研修会などでご活用ください。

